

# やまぎん アジアニュース

経済月報  
No. 498 掲載分  
平成 28 年 10 月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288  
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



【大連支店】

## 「2016 年(第 8 回)大連日本商品展覧会の開催について」

9 月 23 日(金)から 25 日(日)まで大連世界博覧広場(星海広場内)にて「2016 第 8 回大連日本商品展覧会」が開催されました。本展覧会は中国国際貿易促進委員会と大連市人民政府が主催する、中国で唯一の日本商品に特化した展示販売商談会です。過去 4 年間の開催状況は以下の通りで、今回の展覧会は過去最大規模となりました。前回の展覧会も連日開場前から入場者が並ぶほど盛況でしたが、今回はさらに大盛況で、当地における日本商品への関心の高まりは目を見張る状況となっています。

	2013 年 第 5 回	2014 年 第 6 回	2015 年 第 7 回	2016 年 第 8 回
期 間	2 日	2 日	3 日	3 日
出展者数	154	155	167	185
ブース数	150	141	180	208
入場者数	約 10,000 人	約 10,000 人	約 40,000 人	約 54,000 人

日本側では沖縄、京都、金沢、富山、新潟、岩手、宮城、神奈川、兵庫、北九州、佐賀及び九州各地から出展があり、出展商品は水産物・加工食品・調味料・菓子類・茶・日本酒等食品、健康食品、化粧品・美容器具、保健品、生活用品、衣料品、靴、空気清浄機・暖房等家電、陶磁器・鉄瓶・刺繍等工芸品・宝飾品、食品製造機械等幅広い商品が展示される一方、各自治体等による地方観光 PR も行われていました。中国側では日本商品を扱う貿易業者等が自社取扱商品を販売していました。

山口銀行大連支店でもお取引先 14 社が参加、18 ブースを展開し、生活用品、アイデア商品、安全靴、農水産物・調味料・茶・日本酒等食品や健康食品等を展示しました。その中でいくつか興味深い事例を紹介したいと思います。

A 社はたい焼き器を持ち込み、現地での自演販売を行ったところ、3 日間で 2,000 個超が売れました。単に展示されているだけでなく、美味しそうなおいととも、実際に目の前でたい焼きが作られていく様子に大きな関心を持っていただけたようです。

B 社は納豆を展示販売しました。中国ではこの 2~3 年、納豆が健康に良いということが広く知られるようになり、消費量も大幅に増加しています。しかしながら、日本と同様に

---

納豆のにおいと味に馴染めないという方や、食わず嫌いの方も多くいます。そこで B 社は数多くの方に試食してもらうことにしました。今までにおいと味に関する評判の為に食べようとしなかった多くの方々が、自分でも食べられることを認識し、健康に良いものとして多くの方が箱買いをしていきました。

日本から小魚等の原材料を中国に輸入・加工し、日本へ「つまみ」として輸出していた C 社は中国国内での販売を開始したいと考えていました。今回この展覧会に出展し、中国人消費者にその「つまみ」が受けるかどうか試してみたところ、大人気商品となりました。ただし、中国では小魚等を使った「つまみ」は日本のように酒のつまみとしてではなく、子供の発育に良いおやつとして食べさせるために購入されていました。日本で売れる商品が必ずしも中国で売れるとは限りません。日本で狙うターゲットと中国で売れるターゲットが異なることもあります。どのようにして消費者に遡及していくかが重要であるという事例ではないでしょうか。

日本では中国の経済減速が話題となっていますが、大連市を含む遼寧省の今年上半期の経済成長はマイナスで、中国最下位でした。東北三省(遼寧省、吉林省、黒竜江省)はいずれも全国平均を下回り、低迷しています。これは東北三省が古くからの重工業地帯であり、過剰設備からの過剰生産により減産を強いられ、鉱工業分野が低迷していることに因ります。さらに遼寧省においては不動産の過剰在庫を抱え、不動産投資を行うことができず、投資分野も低迷している状況にあります。経済成長を押し上げる 2 つのエンジンが本格稼働できない中、唯一好調を維持しているのは消費分野です。中国人消費者の間で関心が高まっている「安心・安全」「美容・健康志向」「高齢化」というキーワードにおいて、中国人消費者の日本商品への期待は、日本への旅行者の大幅増加と、いわゆる「爆買い」という現象に顕著に表れています。今後は中国人消費者が中国国内で日本商品を日常的に購入できる安定的な仕組みの構築と拡大が欠かせません。それには越境 e コマースの拡大も含まれています。

一方、日本企業にとっては日本国内における景気低迷と人口減少等により、これ以上の消費拡大が見込めない中、企業の維持・発展を図るためには、輸出を図っていかねばなりません。その際最も魅力的な市場が、景気拡大が継続し、中所得者層が大幅に増加し続けている中国です。中国も景気減速傾向にあるとはいえ、中国の GDP 年間増加額は、ASEAN 最大の経済国であるインドネシアの年間 GDP 総額に匹敵するほどです。巨額の景気拡大を継続する中国は、最重要視すべき市場です。

中国の経済都市として、まず思い浮かぶ都市は上海であり、世界最大級の経済都市の 1 つといえます。上海では日本の大手企業を含め、世界の大企業がしのぎを削っています。そのため新陳代謝が激しく、日本の大手企業といえども参入と撤退を繰り返しています。大連は上海と比較するとかなり小さな都市ですが、以下の理由により、日本商品を中国で販売するための最初の窓口として、活用した方が良い都市であるといえます。第一に、大連は中国で一番の親日都市です。大連では尖閣問題の時でさえも、反日デモや日本製品の

不買運動等は一切ありませんでした。第二に、大連には日本に行ったことがある人が多く、日本の商品やサービスに慣れていています。研修生制度により日本で働く中国人は圧倒的に東北三省出身者が多く、彼らの多くが帰国後大連に居住しています。また大連の全ての大学には日本語専門コースがあり、毎年 3,000 人以上が卒業しています。日本語検定 1 級の受験者数は毎回大連と上海が中国 1 位の座を争っています。人口の違いを考えれば、大連の受験者数の多さは特筆すべきであり、その結果多くの学生が日本に留学しています。また大連日本商工会には約 800 社が加入しており、アジアでは上海、バンコクに次ぐ第 3 位の規模で、現在でも 20 万人以上が日系企業に直接雇用されています。こういう事情もあり、大連では約 30 万人が日本語を理解すると言われていています。第三に、大連では今回の「大連日本商品展覧会」や「日本商品大連地区巡回展」「大連-地方銀行合同ビジネス商談会」といった、日本に特化した展覧会・商談会が開催される唯一の都市です。第四に大連は中国で中規模の都市であり、市民の収入も平均的です。このような事情を勘案すれば、中国販売に多額の費用を掛けることができない中小企業にとっては、最初の取り掛かりとして大連を活用していただきたいと考えます。

山口銀行大連支店は、今回の「大連日本商品展覧会」で、展覧会への出展案内から事前準備、出展商品の日本からの輸出や中国での通関にかかる業者等の紹介、展覧会当日の会場でのサポート等、お客様が安心して出展できるようあらゆる場面で対応を行いました。また主催する中国国際貿易促進委員会でもバイヤー等の紹介を行いました。山口銀行大連支店でも地元大手百貨店やスーパー、日本商品の輸入卸売業者等バイヤーの紹介を行い、成果を挙げています。先ほど紹介した A 社には代理店になりたいとの希望者が多数来ています。B 社には昨年 11 月に開催された「大連-地銀合同ビジネス商談会」で大手食品卸売業者を紹介し、成約に至っています。C 社には今回地元大手百貨店系のスーパーを紹介し、早速具体的な商談を開始しています。生活用品やアイデア商品を扱う企業には地元百貨店が関心を示しています。

山口フィナンシャルグループでは日本商品の中国販売や日系企業の中国進出等を強力にサポートしています。中国との取引に関心のあるお客様は是非一度ご相談ください。



(参照)大連と上海の購買力比較

2015年	上海	大連	大連/上海(%)
GDP	24,965 億元	7,732 億元	31.0
第3次産業 GDP	16,915 億元	3,698 億元	21.9
戸籍人口 (常住人口)	1,434 万人 (2,415 万人)	594 万人	
社会消費財小売総額	10,056 億元	3,084 億元	30.7
都市住民平均収入	71,268 元	35,889 元	50.4
うち消費支出	34,784 元	25,824 元	74.2
最低賃金	(2016年4月)2,190 元	(2016年1月)1,530 元	70.0

以 上